

中山道の通行者を調べるには

〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

中山道は、五街道の一つで、江戸と京都を結ぶ江戸時代の重要な幹線でした。戸田は、板橋宿と蕨宿の間に位置し、南北に中山道が通っています。中山道を利用する人々は、荒川にあった戸田の渡しを使って行き来していました。今回は、中山道を通行した人物を調べるための本を紹介します。

「中山道の通行者」を調べるためのキーワード

中山道、街道、戸田、江戸時代、戸田の渡し(戸田渡船場)、参勤交代、旅、道中記

オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す。

●図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「中山道」に関する資料の多くは、次の分類に該当します。本を探すときの目安にしてください。

「中山道の通行者」に関する主な分類記号※これがすべてではありません。

031	百科事典	210.08	日本史 辞典	210.5	近世史	213.4	埼玉県の 歴史
288.4	皇室	291.3	関東地方 の地誌	291.5	中部地方 の地誌	682.1	日本の 交通史

中山道を調べるための本

●中山道の通行者を調べるときは、郷土特集架「中山道」のコーナーの本が参考になります。

中山道の通行者を調べるには

●中山道は、武士、僧侶、姫君、旅人等多くの人々が利用しました。どのような人物が通行したのか調べるときは、下記資料が参考になります。

【埼玉県関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『新編埼玉県史』 通史編 3	埼玉県	1988	T213.4	本館2階・郷土埼玉
	p.625～636「第5章第1節4 日光社参と参勤交代」 正徳6年(1716)*までに中山道を通じた人物として、日光社参をした将軍及び参勤交代の大名がいたことが分かります。 *1716年6月22日「享保」に改元			
『新編埼玉県史』 通史編 4	埼玉県	1989	T213.4	本館2階・郷土埼玉
	p.534～543、560～564「第3章第2節 伝馬負担の増大と宿・助郷」 享保元年(1716)*以降に中山道を公用で通行又は臨時に通行した人物を調べられます。*1716年6月22日「享保」に改元			
『角川日本地名 大辞典』11 埼玉県	角川書店	1980	T291.0	本館2階・郷土埼玉
	p.617～618「中山道」※参考資料室の棚にもあります。 中山道は、加賀藩等30藩の参勤交代のほか、比宮(なみのみや)、五十宮(いそのみや)、楽宮(さざのみや)、和宮(かずのみや)等の姫君が通ったことが分かります。			

【戸田近隣市区関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『蕨市の歴史』2巻	吉川弘文館	1967	T213.4	本館2階・市町村棚
	p.61～76「第6章第1節(3) 休泊」、p.338～408「第4節 宿泊をめぐり諸問題」 蕨宿を通過した大規模な通行の内、御三家、御三卿及び和宮の休憩並びに宿泊について詳しく紹介しています。			
『蕨市史調査報告書』 第3集	蕨市	1987	T213.4	本館2階・市町村棚
	p.1～4「解説」、9～110「和宮様御下向御用日記留」 ※p.9、31 ほか戸田の記述あり 和宮下向に際して蕨宿における準備から当日までの様子約1年分の記録を活字翻刻したものです。戸田各村とも協力していたことが分かります。			
『板橋区史』 通史編 上	板橋区	1998	T213.6	本館2階・市町村棚
	p.545～552「第4章第2節 参勤交代」 文政4年(1821)に中山道を参勤交代で通過した大名は41家あり、臨時に中山道を通過した大名は10家ありました。内、高田藩榊原家の参勤交代を取り上げています。			

【戸田市関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田の交通』 第2回特別展	戸田市立郷土博物館	1986	T069.9	本館2階・郷土戸田
	<p>p.1~9「旅と道中記」、p.10~14「中山道と戸田の渡し」</p> <p>江戸時代における一般庶民の楽しみの一つであった寺社参詣に関する道具類並びに「戸田の渡し」に関する古文書及び絵図を紹介しています。</p>			
『中山道展 戸田の渡しと旅日記』 第18回特別展	戸田市立郷土博物館	2002	T069.9	本館2階・郷土戸田
	<p>p.30~34「御通行」、p.35~44「旅日記」</p> <p>市内に残る古文書から戸田の渡しを通行した人物、庶民の旅行の行程、道中の名所等を紹介しています。</p>			
『研究紀要』第17号	戸田市立郷土博物館	2003	T069.6	本館2階・郷土戸田
	<p>p.91~107「諸大名様御通行留帳について」</p> <p>下戸田村の旧家に伝わる古文書を紹介しています。安永9年(1780)から天明8年(1788)までに戸田の渡しを利用した大名等が分かります。</p>			
『戸田市史』 通史編 上	戸田市	1986	T213.4	本館2階・郷土戸田
	<p>p.1090~1107「第4編第3章第3節 大名通行と特別通行」</p> <p>戸田の渡しの通行人等を調べられます。通行人には、庶民、大名、日光門主、幕府役人、公家又は姫君がいました。楽宮(さざのみや)、有君(ありぎみ)及び和宮(かずのみや)の通行の様子を紹介しています。</p>			
『戸田市史』 資料編3	戸田市	1985	T213.4	本館2階・郷土戸田
	<p>p.646~751「寛政十二年より 諸大名様御通行留帳」</p> <p>旧下戸田村の名主であった武内家の古文書が活字で掲載されています。寛政12年(1800)から文化13年(1816)までに戸田の渡しを通行した大名の名前及び渡船の規模が分かります。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>当時の記録から通行した人物を確認したい方におすすめ</p> </div>			
『戸田市いまむかし』	戸田市	1989	T213.4	本館2階・郷土戸田
	<p>p.136~144「第5章5節 戸田の渡し」</p> <p>『戸田市史』通史編の内容を簡単にまとめたものです。戸田渡船場を利用した大名の名前及び費用並びに宮様の通行について紹介しています。</p>			

【中山道関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『中山道と板橋宿』 特別展	板橋区教育委員会社会教育課 文化財係	1987	T213.6	本館2階・郷土特集棚
	<p>p.23~30、p.41~43 ※p.24 戸田の史料あり</p> <p>幕末から明治時代までに中山道板橋宿を通行した人物の内、和宮、近藤勇、東山道東征軍*及び明治天皇について、ゆかりの資料とともに紹介しています。</p> <p>*p.42より、東山道東征軍とは、慶応4年(1868)有栖川宮熾仁親王を大総督とした幕府追討軍のことと分かります。</p>			

『皇女和宮と中山道』	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2011	R288.4	本館2階・郷土特集棚
	<p>p.18~84</p> <p>中山道を通った日光例幣使、朝鮮通信使、琉球使節、京の姫君、浪士組及び明治天皇について、展示資料の写真とともに紹介しています。京の姫君には、五十宮(いそのみや)、楽宮(さざのみや)、有君(ありぎみ)、寿明君(すめぎみ)及び和宮(かずのみや)がいました。</p>			
『埼玉・歴史の道 50 話』	埼玉新聞社	2005	T682.1	本館2階・郷土特集棚
	<p>p.89~91 「中山道<下>大名通行と大規模な通行」</p> <p>中山道を通行した大名は 49 家(文政 4 年)あり、その内大規模行列だった加賀藩前田藩について紹介しています。</p>			
『中山道-武州・西上州・東信州』 (街道の日本史 17)	吉川弘文館	2001	T682.1	本館2階・郷土特集棚
	<p>p.91、94~95、110 「第 2 章 2 節 中山道地域社会の形成」</p> <p>江戸時代の中山道は、文化人、庶民、幕府の巡見使及び寺社参詣の旅人が通ったことが分かります。</p> <p>p.122~127、134 「第 2 章 3 節 幕末維新と中山道」</p> <p>江戸時代後期の中山道は、和宮(かずのみや)及び維新政府の東山道軍が通ったことが分かります。</p>			

★中山道に関する「調べ案内」は、他にもあります。

[「中山道の概要を調べるには」\(593KB\)](#)

[「中山道の宿場を調べるには」\(634KB\)](#)

[「中山道の道筋を調べるには」\(547KB\)](#)

[「戸田の渡しについて調べるには」\(541KB\)](#)

[「江戸時代の「記録に登場する中山道を調べるには」\(669KB\)](#)

※リンク先は、PDF ファイルです。



通行者の内、姫君の名前の読み仮名については、紹介した資料によっては書いていない場合もあります。今回は、『日本史人名よみかた辞典』(日外アソシエーツ、1999)、『皇女和宮と中山道』、『戸田市史』通史編上等を参考に読み仮名をつけました。